

総括討論

◎鈴木 哲史代議員（葛巻分会）

本部の意見を補強する立場で討論に立つ。葛巻高校7年め、分会長は5回目となる。職場の人事異動や働き方、そして何より葛巻高校の存続に活動してきた。葛巻高校は色々な事情を抱えた子どもたちが入学してくる。一人一人を大切に作る小規模校のよさを改めて感じているが、反面ここには大変な労力が必要なことは言うまでもない。私の月あたりの時間外勤務は140時間になる。ほとんど2人分の仕事をしていることになる。働き方改革が言われているが、この140時間は葛巻高校のために、また子どもたちのために、必要不可欠な時間である。子どもたちの成長と学校の存続、そして教員の超勤削減は両立できないことなのかもしれないと思っている。しかし、中学校時代にあまり学校に行けなかった子どもが休まずに登校して、上級学校に進学するなどしている。数あわせの高校再編にしてはならない。本部もこのことを忘れずに運動をすすめてほしい。今年も存続できるとように地域と一緒にがんばる。



◎道岡 淳一代議員（黒北分会）

黒沢尻北高校分会の道岡です。高教組も推薦している日政連議員は「みずおか・しゅんいち」さん。私は「みちおか・じゅんいち」です。名前がよく似ていますよね。しかも、出身地が同じ兵庫県。是非とも水岡さんには参院選が始まる前に、またここ岩手の地に来て、自らの政策を訴えてほしいものです。

さて、余談はこれくらいにして、この場で訴えたいのは「学校における人権」についてです。一つは、30年前に国連で採択された「子どもの権利条約」についてです。子どもにたちに意見表明権があるのは自明です。ところが、本当にそうなっているのでしょうか。わたしの学校で先日、生徒総会がありました。議案書審議過程で「実質最後の生徒総会。言いたいことは言った方がいいんじゃないの」と投げかけたところ、生徒から意見が出るわ、出るわ。わたしは出張でいなかったのですが、今回の生徒総会は生徒から多くの意見が出され、盛り上がったようです。やはり、学校の主人公は生徒たちでしょう。子どもたちが自らの意見を持つことを、われわれ教員が妨げていないでしょうか？主権者教育にしても、われわれ教員が萎縮することなく、さまざま意見があることを提示して、生徒に考えてもらうことが大切でしょう。

二つ目は、学校におけるわれわれの人権です。皆さん、ワーク・ライフ・バランスはとれていますか。わたしは女子バレーボール部の顧問をしておりますが、毎年、生徒たちには「土日のうち、一日は休まないか。ただ、休むかどうかは、皆で決めてくれ」と投げかけます。生徒たちの返事は毎年「土日とも練習をしたい」です。よって、今は土日も練習です。部活動は生徒主体の活動だと思っているので、私は生徒の考えを尊重していますが、正直なところ休みたい。悩ましいところです。顧問をもう一人増やしてほしいとの願いは届いていません。

感じていることをそのまま話しているようでまとまりがありませんが、「学校における人権」について、今一度、振り返ってみることが必要なのではないのでしょうか。

